

関西大学 初等部  
2021 年度学校評価報告書



2022 年 3 月

# 目 次

1. 本校の概要 .....	1
2. 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策.....	1
3. アンケートの実施状況について.....	17
4. アンケート結果の分析.....	18
5. 学校関係者評価委員会からの評価結果.....	20
6. 校長の意見書 .....	22
7. アンケート結果 .....	22

## 1 本校の概要

### (1) 沿革

2010年(平成22年)4月、学校法人関西大学の初めての小学校として高槻市に開校、中等部・高等部とともに12年一貫教育を行う。学級数12、児童数365名、教員数35名(専任23名、非常勤10名、特任外国語講師2名)である。

### (2) 建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

本学の教育理念である「学の実化」に基づき、学理と実際との調和を基本とする教育を展開し、「確かな学力」、「国際理解力」、「健やかな体」、「情感豊かな心」を養い、高い倫理観と品格を備え「高い人間力」を有する人材を育成する。

校訓として「考動 ー学びを深め 志高くー」を掲げ、めざす子ども像は「考える子」、「感性豊かな子」、「挑戦する子」としている。

## 2 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

- (1) 重点目標①：本校教育の柱である思考力育成の取り組みのさらなる充実を図るとともに、ICT環境を活用した授業実践の充実を図ること。

達成状況の目安：(◎)大幅達成・(○)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 安定した学級経営と 学力向上</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣や学習規律の定着による安定した学級経営及び学習指導(オープンスクール参加者対象アンケートの自由記述欄への各授業での子ども評価及び、保護者の学校評価アンケートの当該設問の肯定的回答80%以上)</li> <li>校長による日常的な各学級回り(授業等参観)</li> <li>児童の学力の向上に資する教員の研究授業(全専任1回</li> </ul>	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>学級経営については、日常的な指導を通して基本的な生活習慣や学習規律の定着を図るとともに、連絡帳や電話による直接連絡・学級・学年だよりに加え、学級・学年ブログにより家庭との連携を進めた。さらには、日記やアンケートなどによる児童への内面的な指導支援を行った。各担任や教科担当と管理職の連携を密にし、児童・保護者・学級等の課題については早い段階で報告を受け、素早い対応に努めた。</p> <p>学力向上については、「思考力を発揮し、学びを深める授業デザイン ～学びを深めるために必要な条件を探る～」という研究テーマを設定し実践・研究を進めた。</p> <p>ICT環境の整備とICTの活用については、全国の小学校で初となるADS(Apple Distinguished School 2018-2021)の認定を受けている。日々、児童の学びを深め広げるために、iPad、ノートパソコン、実物投影機等の機器を有効活用するとともに、ロイロノート・スクールワーク等のデジタルデータの</p>

<p>以上)・研究会(年18回予定)の実施及び教科会議等の月1回の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究発表会の開催(2月6日)</li> <li>全国学力調査結果(国公立大学附属校の平均点を上回る。)</li> </ul>	<p>活用やプログラミング学習の実践を進めている。</p> <p>また、児童の学習活動の充実のため、各学年で外部人材の協力を得ている。</p> <p><b>【達成状況(Check)】</b> (○)</p> <p>毎日、校長が各教室をまわり児童の様子、教員の指導状況を見ているが、それぞれの学級においても安定した学級経営が行われており、児童が落ち着いて主体的に学ぶ様子が見られた。学校運営、生徒指導、教科指導面でも、月1回の定例会議を開き、各教員が情報交流及び指導の充実に努めた。</p> <p>6月に実施したオープンスクール(コロナ禍のため、対面ではなくオンラインでのリアルタイムの授業配信)に参加した受験対象保護者のアンケートでは、「全体を通じて、先生方と子供の距離がとても近く、巧みに個人の考えや感性を引き出していらっしやると感じました。また、先生と子供間のコミュニケーションだけでなく、子供本人が自分で考えたことを子供同士で議論している姿、それぞれが楽しみながら学んでいる姿がとても印象的でした。」、「ビデオではなく、リアルタイムでの授業でありのままの御校の教育について知ることができました。授業を通じて御校が教育内容に掲げられている、『考える力』を養うことへの工夫を実感することができました。」、「1年生から6年生の学習の様子をじっくりと見させていただき、関西大学初等部生としての軸となる『考える事を考える』という教育がどの授業にもしっかりと組み込まれており、また在校生のみなさんも自然と当たり前の様に『考える事を考える』スタイルで授業に取り組んでおられる姿を見させていただき本当に素晴らしいと思いました。また6年生の授業では自然とiPadを使いこなしている様子も見られて『さすがだなあ。』と思いました。」など、今回も児童の学びの主体性やそれを引き出す教員の指導力について高い評価をいただいている。保護者アンケートにおいても、学級経営・学習指導に関するほとんどの項目で90%以上の肯定的評価をいただいた。</p> <p>今年度も管理職を除く全専任教員が研究テーマに沿った研究授業を1回以上行い、研究授業毎に授業反省会を実施した。その際、これまで継続して指導を受けている本学総合情報学部の黒上先生等からも指導助言を受け、指導力の向上を図った。</p> <p>実践・研究のまとめとして2月5日に研究発表会を開催し</p>
---	---

た。コロナ禍ということもあり、研究発表会はオンラインでの開催とした。本年度は4つの授業を複数のカメラで撮影し、リアルタイムでカメラの映像を切り替えながら授業配信する形式とした。授業協議会、外部指導者によるパネルディスカッション及び講演会を実施した。参会者からは、「まず驚いたのは子どもたちの表現力、説明する力です。今日の授業を見ると、どの子も自分なりに解決方法を考えることができしており、すごいと感じました。どのような練習をすれば論理的に解決方法をさぐる力がつくのか教えていただきたいと感じました。」、「自分のものとして思考を拡散させていっている子どもたちが、思考スキルを使いこなせる様子を見て、思考することを意図して子どもを育てていくことの大切さを感じました。」など、高い評価を得た。

また、日常の学習活動に、ゲストティーチャーとして国際交流関係者、助産師、医療メーカー等、多様な職種の方の支援を受けた。

I C T教育については、A D S 2018-2021の認定に引き続き、A D S 2021-2024の認定を受けることが決定した。この認定は本校における「子どもたちが好奇心を持って学べるような環境と思考力を高める取組」が評価されたものである。本年度は、7月7日にI C T活用の公開授業を開催し、授業3本を公開するとともに、ワークショップ及び講演会を実施した。参会者からのアンケートには「全員がiPadをツールとして活用しているさまがよく分かりました。子供たちがiPadを使いこなして創造性を発揮している姿に感銘を受けました」など、本校の実践を高く評価していただいた。

本校では、例年、文部科学省の全国学力・学習状況調査において国語・算数ともに私立・国立小学校の平均点を上回る結果を残してきた。本年度についても、国語・算数の平均点は私立・国立小学校の平均点を上回る結果を残した。

#### 2021年度 全国学力・学習状況調査結果

	全国平均	私立平均	国立平均	本校平均
国語	64.9	76.5	80.0	87
算数	70.3	81.3	84.3	89

	<p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>今年度は、これまでの取組を継続しつつ、新たな研究テーマを設定して児童の学力向上に取り組んできた。今年度の取組の成果と課題を共有して、次年度も教員全体で学力向上に努めたい。また、学力状況の客観的指標である文部科学省の全国学力・学習状況調査については、想定した学力が見えて取れる。今後も基礎基本の定着に加え、児童の思考力・表現力を高めていく指導を充実させたい。</p> <p>また、児童の生活面については、学年団の教員が密に連絡を取り合うとともに、管理職への報告や、現在実施している職員会議等での児童の実態共有の場の設定を継続し、いじめ・不登校等の事象が生じた場合でも、学校全体で情報を共有し対応にあたりたい。</p> <p>I C T活用については、今後もプログラミング、I C T活用方法、情報モラルの指導等、学校全体としての系統的な指導を進めていきたい。</p>
<p>イ 図書館教育の充実</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館司書との連携による読書・資料活用促進（個人の各月読書冊数の一覧表作成、中学年以上を中心に、各授業等での活用のための学年への資料本（数十冊単位）貸し出し）</li> <li>・ 図書館活用のための講座を各学年1回以上実施</li> <li>・ 読書メソッドの活用（ブックトーク、アニメーション、リテラチャーサークル、ビブリオバトル等を学年に応じて実施）</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>思考力育成の土台となる読書活動充実に向け、学年に応じた児童への声かけを行うとともに、各児童が借りた本の冊数集計や一覧作成を行い、日頃の指導に役立てている。図書の授業では、読書に加え、図書館司書による読み聞かせを行うとともに、読書メソッドの活用や調べ学習における資料の活用等、情報活用能力の育成にも力を入れている。</p> <p>読み聞かせについては、例年は図書室に子どもたちが集まって話を聞いていたのだが、本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoomを使って読み聞かせを行うなどの工夫をした。また、各学年のオープンスペースにはブックトラックを置き、読書や調べ学習の充実を図っている。</p> <p>また、現在開設中の「デジタル図書館」は子どもたちが自宅からでも自由に本を借りることができるシステムである。このため、長期の休校や夏休みなどの休業中であっても、子どもたちは興味を持った本を自由に読み進めることができた。</p> <p>また、司書による図書館活用講座の他、絵本作家による講演会も実施した。</p>

【達成状況 (Check)】 (○)

図書室の読書スペース「わくわく館」と学習スペース「はてな館」を目的に応じて活用し、読書に加え探究学習のために各教科等での情報収集の場としている。本年度は「はてな館」に子どもたちが興味を持ちそうなブースを期間限定で設置することで、より子どもたちが図書室に足を運ぶ機会を増やすことをめざした。例えば、本校との交流校である韓国花津小学校からいただいた物品や「交流校締結の公式文書」などを展示した韓国ブースなどは、韓国と交流している2年生が非常に興味を持ったブースであった。オープンスペースブックトラックには一定期間資料本を置くことで、児童の図書活用の頻度が高まっている。

1月末までの本の貸し出し数は、全校で41,809冊となった。(1年 16,000冊 2年 5,985冊 3年 7,946冊 4年 5,267冊 5年 3,777冊 6年 2,834冊)。昨年度の51,424冊から大きく数字が減少しているが、減少分は「デジタル図書館」で貸し出しされていると捉えている。「デジタル図書館」の貸し出し冊数については、システムの制約上冊数が集計できないが、子どもたちの反応から多くの本が借りられていることがうかがえる。

4名の司書は、児童の選書支援はもとより、情報活用に関わる支援、また、教員に対する支援も行っている。読書講座については、図書館活用オリエンテーションだけでなく、図書の分類、図鑑の活用方法等、探究活動につながる指導も行った。

また、外部講師として日本を代表する絵本作家のお一人で日本絵本大賞など多数受賞されている長谷川義史先生をお招きし、児童文学講演会を行った。昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、5年生と6年生が入れ替わりで対面のLIVE講演、1～4年生は各教室でLIVE配信を視聴するという形式で行ったが、本年度は全校生がアリーナにて対面で講演会を聞くことができた。さらに、本年度は西日本私立小学校図書館教育部会の特別イベントとして、絵本作家の tupera tupera さんにも本校にお越しいただき、絵本ライブを実施していただいた。対面で「やさいさん」、「いろいろバス」などの読みきかせをしていただいたことで、子供たちは絵本の魅力を深く味わうことができた。

	<p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>思考力育成の土台となる基本的な語彙や知識の獲得は、計画的な図書館教育によって支えられており、読書指導、情報活用力の育成両面から次年度も継続して取り組みたい。貸出量については、ページ数や文字数等の関係で低学年と高学年の差はあるが、日常の読書量、読書内容、また資料活用について司書と連携して指導・支援をすすめるとともに、積極的な図書館活用につながる啓発を行っていきたい。図書を扱うルールやマナーについても引き続き具体的な指導を進めていく。</p> <p>また、絵本作家長谷川義史先生による講演は、作者本人による絵本の読み聞かせもしていただき、児童の読書への興味関心を高める良い機会となったので、今後も継続していききたい。</p>
<p>ウ 国際理解教育の推進</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語圏、アジア圏の国々との積極的な交流</li> <li>① 各学年（2年生以上）の国際交流取組の継続実施</li> <li>② 交流国、交流内容に応じたテレビ会議や互いに作成した資料交流等を各学年3回以上実施</li> <li>③ 英語教育との関連づけ（テレビ会議、修学旅行等の交流に合わせたコミュニケーションスキルの習得機会を設定）</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>国際交流については、テレビ会議システムの活用や手紙や学習成果物の直接交流により2年生以上の学年で取組が定着してきた。コロナ禍ではあるので、全てが例年通りとはいかないが、韓国花津小学校とのテレビ会議システムを利用した交流など、取組を継続してきた。</p> <p>6年生のオーストラリアへの修学旅行などが実施できないため、オーストラリアのバークデール小学校とのテレビ会議を手紙のやりとりに変更し、テレビ会議の交流先をバークデール小学校から沖縄アミークスインターナショナル小学校に変更し、様々な制限がある中でも子どもたちの体験活動が充実するよう取組を工夫した。</p> <p>それぞれの学年において、交流の際に英語で質問や挨拶ができるように、英語のモジュール学習や授業を進めている。</p> <p><b>【達成状況(Check)】</b> (○)</p> <p>英語圏、アジア圏の国々との積極的な交流については、コロナ禍のため相手先の学校が休校となっているなど、様々な要因により交流することが難しい状況であった。ただし、子どもたちの交流する機会をできる限り保証するよう臨機応変な対応を試みた。</p> <p>交流相手校や関係機関と連携し、2年韓国・4年カンボジア・6年オーストラリアとの交流を実施できた。事前に交流テーマを決め英語も交えて直接交流することにより、児童が</p>



	<p>意欲的に活動に取り組み異文化理解を深めたり、コミュニケーション面で自信を持ったりすることができた。</p> <p>6年生については、例年はオーストラリアへの修学旅行に行く前に、パークデール小学校とテレビ会議で交流し、児童が意欲的に活動に取り組み異文化理解を深めることを促してきた。ところが本年度はコロナ禍のため、修学旅行の行き先を沖縄へと変更した。この変更にともない、直接交流の相手先もパークデール小学校から沖縄アミークスインターナショナル小学校へと変更し、相手意識を持って子どもたちが交流できるようテレビ会議で情報交換することにした。実際には、新型コロナウイルスの感染急拡大により修学旅行は中止となったが、沖縄アミークスインターナショナル小学校とのテレビ会議は実施することができた。</p> <p>コロナ禍のため、予定変更、軌道修正など先が読めない状況であったが、子どもたちがモチベーションを落とさずに活動を続けることができたのは、結果的には実施できなかったとしても修学旅行実施の可能性をあきらめず、相手意識を持ち続けてきたことが大きな要因であったと捉えている。</p> <p>英語教育においては、四技能をバランス良く育てることをめざしてカリキュラムを工夫し、コミュニケーション能力の基礎を養う指導を進めることができた。1年生から4年生までは保護者向け英語発表会も実施している。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>コロナ禍がいつどのような形で収まっていくのか、また、国際交流については相手先もあるため、明確な見通しを持ちにくいところもあるが、可能な範囲で子どもたちにとって価値ある体験を積み重ねられるような方法を模索していきたい。</p>
--	---

(2) 重点目標②：良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 生徒指導・人権教育の充実</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で児童を指導・支援する体制の確立(年度当初の</li> </ul>	<p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>今年度も、教員による日常的な児童観察の他、生徒指導部、健康教育部の各主任と、教務主任・当該学年主任・担任からなる生徒指導連携会議を校内の生徒指導の中核として位置づけた。また、「子どもを語る会」や毎月の職員会議における各学</p>

「子どもを語る会」実施及び児童の情報交流を毎月実施)

- ・ 児童対象の生活アンケートを年2回実施し、実態把握と必要に応じ学校全体での早期対応に努める。
- ・ いじめ問題・不登校等への対応など生徒指導に係る校内体制の確立(生徒指導連携会議及び、いじめ・不登校対策委員会実施による早期発見・早期対応)
- ・ 人権教育の取組充実(全児童対象の人権教育講演会を1回実施、情報モラルに係る学習機会の設定、系統性をふまえた各学年の学習内容の確立)

級の状況報告により、支援の必要な子どもについて教員全体で共有するとともに、一人ひとりの状況把握のために全児童対象の生活アンケートを実施した。また、保護者に対しても年度当初に「学校のきまり」の冊子を配付し、生活指導全般に対する協力を依頼している。いじめ・不登校問題への対策については、管理職を含む「いじめ・不登校対策委員会」を設置し、必要に応じて円滑な対応ができる体制を整えている。

人権教育に関しては、意識を向上させるため学年カリキュラムを作成し、計画的に実施するとともに、人権教育講演会を実施した。

#### 【達成状況(Check)】 (○)

年2回の児童生活アンケートは生徒指導部会が集約・分析を行い、日常の指導にいかすとともに、必要に応じて全教員で情報を共有した。また、「その日の問題はその日のうちに解決」をモットーに、担任を中心として電話、連絡帳により家庭との意思疎通を図ることで、学校と家庭とが一体となって指導支援を行うことができた。「子どもを語る会」については、年度当初に加え年度末にも実施し次年度への引き継ぎを行った。

今年度、「いじめ」事象が一件、発生した。この件については、当該児童への学年担当教員による丁寧な聞き取りに加え、生徒指導担当教員、養護教諭、管理職をメンバーとした生徒指導委員会における情報共有と指導方針の検討により、適切な指導を行うことができた。

不登校傾向のある児童が数名在籍しているため、担任だけが抱えることなく不登校対策委員会を招集したり、ミューズキャンパスのスクールカウンセラーとの連携も行ったりしながら、学校全体で対応に取り組んでいる。

人権教育については、分野別の学年カリキュラムをもとに指導を進めるとともに、車椅子バスケットボール選手の北田千尋選手をお招きし、「ともに生きる」をテーマにした人権講演会を開催した。北田選手にお越しいただくのは2回目である。北田選手には、夢を叶えるために懸命な努力をされ、今では日本でも有数の車椅子バスケットプレイヤーとして活躍されるに至った体験をお話していただくとともに、実際に競技用車椅子を使っのランやシュートも実演していただき、子どもたちに夢を持つこと、その夢を実現するために努力する

	<p>ことの大切さを伝えていただいた。</p> <p>また、各学年対象に外部講師を招いた「いのちの授業」を行うことで子どもたちの人権感覚の育成をめざした。1年生・4年生は大阪府助産師会から、5年生は尼崎市薬剤師会から、6年生は日本臓器移植ネットワークからそれぞれ講師を招聘し、2・3年生は本校教員が講師となり「いのちの授業」を実施した。それぞれの学年の発達段階に応じた指導により、子どもたちにとって命の大切さと人権感覚を身につける大切な時間となった。</p> <p>情報モラルの指導については、本年度から全校生が iPad を個人所有することになったため、全校生を対象に行った。各学年とも、児童の発達段階に応じた学習会を実施することができた。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>児童は全体的に落ち着いて学校生活を送っているが、毎月の職員会議では数件、職員間で情報共有すべき報告事項があった。今後も、職員間で情報共有し、多くの教員の目で児童を見て学校全体で解決にあたる体制を継続していきたい。</p> <p>また、登下校時の児童の行動について一般の方からご指摘を受けることもあったので、教育後援会とも連携しながら指導を継続していきたい。</p> <p>人権教育に関わるカリキュラムについては、ねらいや内容を全体で共有し、部会を中心に精査していきたい。</p>
<p>イ よりよい学校生活を築く態度を育成する特別活動の推進</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団への所属感や望ましい人間関係育成のための行事開催</li> <li>・ 児童の自主性及び児童相互のつながりを育むための集団活動の実施</li> </ul> <p>委員会・・・隔月1回実施 クラブ活動・・・年7回実施</p>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>各学級・学年で年度当初に年間目標を考え、主体的・協働的に学校生活を送ることができるようにしている。</p> <p>昨年度は、コロナ禍のためオンラインで実施した運動会を本年度は10月に保護者を招いて実施した。</p> <p>宿泊学習については、2年生の高槻（1泊2日）、3年生の奈良（1泊2日）4年生のスキー合宿（2泊3日）、5年生の南阿波（3泊4日）、6年生のオーストラリアへの修学旅行（6泊7日）を計画していたが、コロナ禍のため宿泊は行わないことにした。代わりに、日帰りの校外学習を複数回行うことで子どもたちの活動の機会を保証した。</p> <p>5、6年生による委員会活動、4年生以上によるクラブ活動</p>

全校縦割り活動

・・・年5回実施

を予定通り実施した。全校縦割り活動については、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を鑑み、教室内での活動は実施せず、本年度新たに全校生による「縦割り遠足」を実施した。

【達成状況(Check)】 (○)

校外学習については、4年生がスキー実習(2泊3日)の代わりに日帰りで2回(神戸方面、天王寺動物園)、6年生が日帰りで3回(広島、奈良、京都)に行くなど、それぞれの学年の実態に応じた豊かな体験活動を実施することができた。また、6年生の修学旅行(2月)は新型コロナウイルスのオミクロン株による感染急拡大を受けて中止となったが、代わりにネスタリゾート神戸や長島スパランドで日帰りの体験活動を行うなど、状況に応じて臨機応変に子どもたちの体験活動を実施することができた。

児童の自主性及び児童相互のつながりを育むための集団活動として本年度実施した「縦割り遠足(11/2)」は、コロナ禍における「児童の安全を第一にしつつも、豊かな体験活動を保証する」新たな取組である。具体的には、新大阪駅発・南紀白浜着のJR「特急くろしお号」の特別編成列車を「かんだい号」として一編成貸し切り、全校生363名が学年ごとに一つの車両に分かれて乗車して移動。目的地「白浜アドベンチャーワールド」において1年生から6年生までの縦割り班(24班)に分かれて縦割り活動を行った。感染症対策のため、校舎内では縦割り活動が行えないなど閉塞感に包まれていた時期であったが、子供たちの思い出に残る行事を実施することができた。遠足当日、白浜駅を「かんだい号」が出発したことを知らせる一斉メールを保護者向けに送信したところ、多くの保護者から感謝を伝える返信があった。その一部を紹介する。「本日は本当にありがとうございました、素敵な企画を聞いた日からワクワクがとまらない子ども達でした。幸せな子たちです。コロナ禍の特別な思い出になりそうです。心より感謝申し上げます。」「ご連絡ありがとうございます。お天気にも恵まれ、楽しい遠足であったと想像しております。かんだい号貸切という面白い企画をしてくださり誠にありがとうございます。」「今日は全校生徒を遠足へと連れて行って頂きありがとうございました。とても楽しかったらうと思います。6年生はリーダーとしてのプレッシャ

	<p>一があった様ですが、良い経験になったと思います。お土産話しが楽しみです。」</p> <p>コロナ禍で様々な制約があったが、年間を通じて臨機応変に「集団への所属感や望ましい人間関係育成のための行事」を開催することができたと考えている。</p>
	<p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>学校行事については、文化祭、運動会等において全児童が十分に力を発揮し、達成感を持ち自尊感情を高めることができたと考えている。また、本年度初めて実施した全校「縦割り遠足」についても、コロナ禍における新たな異学年交流の形だと捉えている。</p> <p>コロナ禍がいつどのような形で収まっていくのか、明確な見通しを持ちにくいところもあるが、今後も可能な範囲で子どもたちにとって価値ある体験を積み重ねられるような方法を模索していきたい。</p>

(3) 重点目標③： 管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 安心・安全の学校生活を構築するための安全管理・指導</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の安全管理に関する定期的な訓練及び指導の実施(年3回実施)</li> <li>教育後援会(保護者)との連携及び啓発(地区委員会による通学見守り活動や啓発活動の実施)</li> </ul>	<p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>登下校のマナー指導や危機対応については、日常の学級指導の他に、全校集会で具体的な指導を継続して行い意識の向上を図った。また、学校便り(初等部日より、生徒指導日より)により、安全に関する保護者啓発を進めることに加え、教育後援会の活動として今年度も登下校見守り運動が行われた。</p> <p>管理面では、地震・火災等の避難訓練等を実施し、万全を期すよう努めている。</p> <p><b>【達成状況(Check)】 (○)</b></p> <p>コロナ禍のため、例年行ってきた全校一斉下校指導・引き渡し訓練は実施しなかったが、本年度は低学年の一斉下校指導を行うことができた。地震・火災発生時の避難訓練等については、新型コロナウイルスのオミクロン株による感染急拡大を受けてグラウンドへの避難を中止したが、実施可能な訓練や指導は予定通り行うことができた。</p>

	<p>児童の意識向上(特に登下校時の公共交通機関のマナー、ルールの遵守)については、一般の方からのご指摘や苦情があったが、都度、直接指導や全体への指導を行ってきた。また、教育後援会の地区委員会主導による見守り活動及び啓発活動については、保護者の活動として定着し委員以外の保護者にも広がりつつある。</p> <p>本年度の4月、本校児童がJR高槻駅へ向かって下校途中に歩道で自転車と衝突するという事故があった。当該児童は右足を骨折し、半年以上の車椅子生活を余儀なくされるという痛ましい事故であった。当該の児童は通学路として指定された歩道を適切に歩いていたが、歩道(自転車通行可)を高速で走行してきた自転車の不注意により衝突に至った。</p> <p>学校として高槻市に働きかけ、当該歩道に「自転車の運行者向けの注意喚起の立て看板」を設置してもらうとともに、自転車通行可の歩道を通らない通学路の試行を半年間実施し、新たな通学路の検討を行った。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>校内・登下校時の基本的なルール・マナーについて、全教員の共通認識のもと、日常の学級指導や全校集会での指導について検討し改善を進めたい。</p> <p>また、教育後援会との連携を深め、登下校見守り運動の継続や保護者の意識向上等、学校と家庭が一体となった安全管理及び安全指導の充実を図る。</p> <p>現在までの試行をもとに、2022年度以降、子供たちの安全・安心を第一とした通学路を設定することにする。</p>
<p>イ 安心・安全の学校生活を構築するための給食・アレルギー対策の実施</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アレルギー対応についての教員研修の実施及び職員会議における教員の情報共有</li> <li>業者及び保護者との連携によるアレルギー対策の徹底</li> </ul>	<p>自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>給食管理・指導については、養護教諭と管理栄養士が中心となり、業者との日常的な打ち合わせと定例の会議を行っている。アレルギーをもつ児童に対しては、全教員が各児童の状況について認識するとともに、代替・除去等が見える形で配膳して安全管理を進めている。また、年度末に保護者からの児童の状況についての書類をもとに、次年度の対応策について確認している。</p>

<p>(給食業者との月1回の調整会議を実施)</p>	<p><b>【達成状況(Check)】 (○)</b></p> <p>日常的な打ち合わせ及び月1回の定例の会議では、よりおいしい給食をめざした献立作成はもとより、アレルギー対応等についても常に情報を共有し、その結果を当該児童の学年団に伝えている。今年度も、エピペン研修を実施した。</p> <p>昨年度、給食業者によるアレルギー対応に事故があった。幸い大事には至らなかったが、原因となったのはヒューマンエラーである。事故発生後、当然ながら事故の原因を明らかにするとともに、同様の事故が発生しないための仕組みづくりとチェック体制の確立を行い、本年度は事故なく一年を終えることができた。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>給食業者が2022年4月から別の業者が変わることが決まっている。給食、宿泊行事におけるアレルギー対応について万全を期すため、新たな業者との連絡・調整を密に行うことを徹底する。</p> <p>エピペン持参の児童も在籍しているので、救急体制についても全教員で共通理解できるよう努める。また、アレルギー対応だけでなく、給食のメニュー向上に向けても引き続き、業者との連携を進めていきたい。</p>
<p>ウ より多くの出願をめざす入学試験の実施</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい入学試験内容・方法の確立</li> <li>入試広報戦略の検討及び効果的な広報活動の実施</li> <li>年4回の学校説明会、オープンスクールの実施</li> <li>年50回以上の幼児教室訪問</li> </ul>	<p>自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>コロナ禍のため、オープンスクールは感染症拡大防止の観点からオンラインで実施した。授業参観者が臨場感を得られるように、ビデオカメラを持った教員が校舎内を移動しながらリアルタイムで授業の動画を配信する形式で実施した。</p> <p>入試説明会については人数制限をした上で、7月に対面形式で行うことができた。</p> <p>緊急事態宣言中の幼児教室訪問は控えたが、メールと電話で幼児教室関係者と連絡を取り合った。幼児教室訪問は60回以上、幼児教室関係者とのメール送受信記録は4月1日以降200通を超えている。</p> <p>幼児教室に働きかけ、オンライン(Zoom)で保護者とつながる形式での双方向学校説明会を実施した(7回)。</p> <p>各幼児教室主催の対面形式の説明会を実施(6回)。</p> <p>入学試験については、昨年度までの10月入試に加え、本年</p>

度からは2月にも試験を実施することで、多くの受験者を得ることを目指した。

【達成状況(Check)】 (○)

オープンスクールをオンライン形式で実施している学校は多いが、他校は全て「授業を録画し、編集した動画を配信する」という形式である。本校のような「授業をリアルタイムで動画配信する」という学校は他にないため、受験希望の保護者からは好意的に受け取られたようである。オープンスクールに関する保護者の感想を一部紹介する。「オンラインで、ライブ授業を観れると思っていませんでした。事前に録画しておいたものを拝見する形かと思っておりましたが、ライブ授業だったので、びっくりするとともに、児童たちが全く臆することなく、自身の意見を活発に発表し、周りの児童たちもとてもしっかり意見を聞いて反応していて、まさに日々の授業がこのような楽しい時間であることが伝わってきました。」、「オンラインでの開催でしたので、事前に撮影をした授業風景を見せて頂けると思っていたのですが、ライブでの配信にとっても驚きました。途中、音声途切れてしまったりした際の、先生方の対応にも、心温まる思いでした。」、「コロナ禍ですので、参観もない中、本日のオープンスクールを楽しみにしておりました。まるで校内を歩いているように見学でき、全学年を拝見出来た連携にも感激でした。伸び伸びした初等部の良さが伝わるオープンスクールを、ありがとうございました。」、「先生方が、入学を考えている受験生たちに、生の学校をお見せしたい、という気持ちが伝わってきました。途中音声の途切れなどありましたが、かえって、ライブ感が増して、私どもとしては印象がとても良かったです。先生方が最高の教育を、という気持ちで日々奮闘されていらっしゃるのことでしたが、未来の児童になる受験生に対しても同じ気持ちで最高のオープンスクールを、とっていただいていることがわかり大変感謝しております。」

本年度から、昨年度までの10月入試を「A日程入試」、2月に実施する試験を「B日程入試」として実施することにしました。結果的にA日程入試の志願者が128名(昨年度112名)、B日程入試の志願者が11名(昨年度実施せず)と多くの志願者を集めることができた。

本年度もコロナ禍のため、ペーパーテストと行動観察の時



	<p>間を短くし、内容も順を追って丁寧に考えると解ける問題を中心に出題した。その結果、短い時間で効率的に入学試験を実施することができた。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>説明会でのアンケート調査や各幼児教室の関係者からの情報では、今年度も他の私学にはない本校の思考力育成の取組に魅力を感じるという感想に加え、コロナ禍における本校の迅速な遠隔授業の実施、充実したICT環境などを高く評価する感想が多くあった。</p> <p>関西の入試状況は厳しいが、出願倍率2倍以上の確保をめざして引き続き本校の魅力について発信していくとともに、教育活動のさらなる充実と効果的な広報活動について検討する。</p> <p>また、今年度実施したペーパーテストの傾向については次年度以降も継続したい。</p>
<p>エ 中等部・保護者・大学との連携の充実</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理職連携（週1回の初中定例会議、月1回の管理職会議の実施）</li> <li>・ 教育後援会との密な連携 （管理職、事務職、教育後援会役員・委員による月1回の実行委員会実施）</li> <li>・ 保護者対象の説明会の充実 （5、6年生保護者に加え、全校保護者対象の会を実施）</li> <li>・ 教育活動の様々な分野における大学との連携（高学年における留学生との交流、4年生社会・道徳の小大連携）</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>初等部と中等部の教頭、また、教頭と教務主任による週1回の初中定例会議の実施により連携行事や調整事項について協議した。</p> <p>本年度、定例の管理職会議は実施しなかったが初等部・中等部・高等部シニアアドバイザーと連携することで、例年よりも密接な初中高連携を行うことができた。</p> <p>保護者との連携では、担任はもとより教科の担当教員が必要に応じて保護者に連絡をとるなど、家庭と密に連絡を取っている。</p> <p>中等部進学に向けての情報提供の場として5・6年生対象の内部進学説明会をオンラインで行った。</p> <p>全保護者を対象とした中高等部の教育内容について情報提供する会（お話し会）については、初等部・中等部・高等部の卒業生が自分たちの学んだことを保護者向けに語る座談会形式で8月31日実施された（中・高等部主催）。</p> <p>また、教育後援会との連携では、夏休み明けから月1回程度の実行委員会を開催し、学校行事への支援、登下校の見守り、新入学児童への支援、後援会独自の行事等について協議を行っている。</p>

関西大学からは、研究や授業への指導、国際交流支援等を受けている。また、4年生のキャンパス訪問による大学創立に関する学習により、大学への帰属意識を向上させる取組も例年通り実施している。

【達成状況(Check)】 (○)

本年度もコロナ禍による様々な対応を初等部・中等部・高等部で連携して行う必要があった。日々状況が変化中、様々な対応をミューズキャンパス全体で統一して行うため、昨年同様に細かな連絡・調整が非常に大切であった。

中高等部の教育内容について情報提供する会（お話し会）中等部・高等部のめざす具体的な学校像、中等部・高等部の大切にしている探究学習や思考力育成の具体的な成果を十分に保護者に伝えられることをめざした。具体的には、中高等部の探究学習担当教員がコーディネーターとなって、関西大学法学部に在籍中の初等部一期生2名が中高等部の学習内容について語る座談会である。教員からの一方的な情報提供ではなく、卒業生と教員の会話を通して「中等部の考える科・高等部のプロジェクトなどの取組」が伝わる内容だった。参加した保護者の感想を紹介する。

「有意義な時間、ありがとうございました。初等部から大学生になられたお二人が受け答えや話し方が分かりやすく明瞭で、立派な姿に感心致しました。このまま中等部、高等部と進学していく事に希望と自信を持ってました。本当にありがとうございました。」「本日のお話し会、ありがとうございました。初等部から成長された先輩ということが伝わるような、素晴らしい体験や人物そのもののお二人でした。娘が聞いたら、憧れどころか手の届かない存在にすら感じるほどのプレゼン力と、とっさの表現力に感心してしまいました。素敵な時間を、ありがとうございました。」

参加した保護者は「初等部で学んだことがきっかけとなってSDGsに取り組むことになったエピソード」や「中等部・高等部・大学でも初等部・中等部で学んだシンキングツールを活用しているエピソード」などを聞いたことで、「初等部の学びが中等部・高等部の学びにどうつながっていくのか」を明確に意識することができたようである。

保護者との連携については、学校との信頼関係を築くことができているが、携帯の使用、車使用等、保護者自身のマナ

	<p>一等については課題が見られる。</p> <p>大学との連携については、4年生の歴史学習や研究への指導助言等については継続できている。</p>
	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>初中連携について、管理職間の協議で課題の共通認識と方策について検討する機会を定着させる。</p> <p>中高等部主催で実施された初等部一期生2名と教員による座談会は、中高等部で大切にしている探究学習や思考力育成の具体的な成果を十分に保護者に伝えられる機会であった。今後も保護者向けのより良い情報提供の方法を模索していく必要がある。</p> <p>保護者連携については、学校と家庭との連携とは別に、保護者同士の円滑な関係づくり、連携や、マナーについての啓発を教育後援会との連携により継続して進めていきたい。</p> <p>また、大学との連携については、教員の指導力向上や児童の学習活動充実のために、さらなる連携を検討していく。</p>

### 3 アンケートの実施状況について

保護者アンケートは2月5日から2月19日、教員アンケートは2月5日から2月14日、児童アンケートは2月15日から2月17日に実施した。昨年度まではアンケート結果をマークシートで回収していたが、本年度はアンケート集約の効率化をめざしてGoogleフォームを使用した。

保護者アンケートの回収結果は、全保護者363名中317名、回収率87%で、昨年度より9ポイント減少した。回収率が大きく減少した原因としては、本年度からGoogleフォームを使用したことが考えられる。紙の配布物(プリント)は全保護者が目を通す確率が高いが、Googleフォームの使用にあたっては電子メールでの配信となるため、一定数の保護者はアンケートの存在に気づいていなかった可能性がある。来年度以降もGoogleフォームを使用するのであれば、アンケートの実施期間を長めに設定するとともに、アンケート未提出の保護者に対して紙の配布物でアンケート提出の依頼を再度行うなど、回収率を上げるための工夫が必要である。

教員アンケートは専任23名から回答があった。専任の回収率は100%である。また、児童については、4年生から6年生を対象とし、風邪・発熱等で欠席・出席停止となっている児童がいたため回収率は96%である。

アンケート項目・内容については、例年通りの内容に教員・保護者向けどちらにも「コロナ禍への対応は適切に行われているか?」という項目を追加している。それぞれ教員41項目、保護者33項目とし、例年と同じく観点を揃えて対比させた。

評価については、3種類のアンケートとも4段階評価としている。「よくあてはまる」、「ややあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「まったくあてはまらない」

項目・内容については、いずれも職員会議で検討・承認されたものである。

## 4 アンケート結果の分析

### ア 教員・保護者アンケートについて

全体を通して、保護者の評価は今回も肯定的評価が90%を超えるものがほとんどであり、これまで進めてきた初等部の教育活動に高い評価をいただいたことは学校にとって嬉しい結果であると考えている。また、教員についても、今回のアンケート結果は昨年度と比較して肯定的評価が伸びている項目が多い。各教員が昨年度の結果をもとに自身や学校全体の教育活動を改善してきた成果として評価したい。

以下、いくつかの項目についての分析を述べる。

No. 1は本校の私学としての独自性・認知度を、No. 2・3は初等部教育全体に対する納得度・満足度を尋ねている。保護者についてはいずれも肯定的評価が95～97%と非常に高い評価となっている。ただし、否定的な評価が1ポイントから2ポイント増加しており、この点については来年度への課題だと捉えている。

教員については、No. 2（公立や他私学に負けない教育）が5ポイント増、No. 3（一人一人が大事にされる学級作り）の肯定的評価が100%となっており、教員が自分の取組を肯定捉えていることがうかがえる。

No. 4からNo. 15（保護者はNo. 9, 10は無し）までは、学級経営・学習習慣を基本としてどのような学力向上策がとられたかについての項目である。保護者評価は、ほとんどの項目で肯定的評価が90%を上回っている。初等部の授業、取組に対して満足してもらっていると考えているが、No. 11（工夫した英語の授業）、No. 14（積極的な読書指導）を除いて1～3ポイント否定的な評価が増えているところは来年度への課題と捉えている。

教員については、No. 5（確かな学力をつけるための工夫された授業）が5ポイント増となっている。この結果についても、No. 2（公立や他私学に負けない教育）と同様に本校教育の中核となる部分であり、教員が自分たちの取組に自信を持つことができたのだと捉えている。

No. 17～21は生徒指導及び特別活動に関する項目である（保護者は、No. 21無し）。保護者評価は昨年同様に肯定的評価が90%を超えており、生徒指導・特別活動の指導に一定の理解を示していただいていると捉えている。

No. 22～27の道徳教育、人権教育、健康教育に関する項目については、No. 24（国際交流を通じた国籍の違いを認め合う教育）の保護者評価が13ポイント減、教員評価が7ポイント減となっているが、原因はコロナ禍のため国際交流のいくつかができなかったことだと捉えている。

No. 28からNo. 32（保護者はNo. 28, 30無し）は安全管理に関する項目である。保護者については、いずれも肯定的評価が98～99%と非常に高い評価となっている。教員についてはNo. 28, No. 30, No. 31 No. 32で否定的評価が増加しており、来年度への課題である。

No. 33, 34, 35（保護者はNo. 34無し）は教員研修に関する項目である。保護者評価は昨年度とほぼ同様の結果であるが、教員についてはNo. 33（思考力育成や授業全般の指導力向上の研修）については、大幅に30ポイント減となっている。コロナ禍ということもあり、感染症対策のため全職員が参観する研究授業を実施しないなど、学校全体での研究体制に課題を感じている教員が多い。以前は、全教員が参観する研究授業を年間4回程度行っていたので、来年度以降、オンライン参観なども取り入れながら全教員が参観する研究授業を実施するなど工夫し

ていく必要がある。

No. 36（中等部進学に向けた適切な情報提供）は進路指導、特に保護者に向けた情報提供に関する項目である。保護者の肯定的評価が昨年度より 11 ポイント増加しているのは、本年度の全校保護者を対象とした情報提供会（お話し会）において、初等部・中等部・高等部の卒業生が自分たちの学んだことを保護者向けに語る座談会形式で実施されたことが高評価につながっていると捉えている。

それに対して、教員の肯定的評価は 17 ポイント減少している。減少した要因として「全校保護者を対象とした情報提供会（お話し会）」は中高等部の教員が初等部保護者対象に情報提供する会であるため、初等部教員がその内容を十分に把握していなかったためだと推察する。

No. 37（保護者は無し）は入試・広報活動についての項目である。肯定的評価が 10 ポイント増であり、計画的な入試・広報活動を行うことができたかと捉えている。

No. 38（保護者は無し）は関西大学との連携に関する項目である。昨年度と同様、半数以上の教員が課題有りと感じている。今後、さらに可能性を模索していきたい。

No. 39, 40 は教育後援会との連携及び学校と家庭との連絡や相談に関する項目である。教員の肯定的評価は No. 39 が 4 ポイント減、No. 40 が 13 ポイント減となっている。来年度の課題としたい。

本年度 No. 41（コロナ禍への対応）の項目を新たに設定した。昨年度との比較はできないが、本校の取組は概ね肯定的に受け止められていると捉えている。

## イ 児童アンケートについて

どの項目についても肯定的評価が 90%を超えており、どの学年の児童も学校生活や自身のがんばりを概ね肯定的に評価していることがわかる。

No. 1、No. 2 は、初等部での在籍及び学校生活についての評価である。それぞれ肯定的評価が 90%以上あるとはいえ、否定的な評価をしている児童も No. 1 で 3%、No. 2 で 7%存在している点は大きな課題だと捉えている（昨年度はどちらも 99%が肯定的な評価をしていた）。

学習に関する項目では、No. 3（勉強意欲）が 94%、No. 4（思考力がついたか）が 94%、No. 5（授業評価）は 97%、No. 6（読書や資料活用）は 95%が肯定的評価となっているが、それぞれ 100%にできる限り近づくよう取組を進めていきたい。

No. 7（ICT活用）、No. 8（運動会や文化祭などへの参加意欲）、No. 9（学校生活のルール遵守）については 95%が肯定的評価となっている。100%に少しでも近づけられるよう指導を進めていきたい。

No. 10（いじめやなかまはずれ）については 6%の児童が否定的な評価をしている。当然、100%が肯定的な評価となることをめざしていくのだが、実際にいじめ・なかまはずれが起ってしまった場合は、加害側の児童はその言動を自覚・改善する必要がある。6%の児童については、学校の指導により児童が自分達の言動を見つめ直した結果だと捉えている。来年度、生徒指導面、児童理解面を充実させ肯定的評価 100%をめざしたい。

## 5 学校関係者評価委員会からの評価結果

### (1) 自己評価の結果を受けて

#### ア 重点目標①「本校教育の柱である思考力育成の取り組みのさらなる充実をはかるとともに、ICT環境を積極的に活用した授業実践を進めること」について

- ・コロナ禍のICTを活用した遠隔授業等の取組をはじめ、大幅に達成されていると感じる項目も多数ある。評価にメリハリを付けるという意味でも、達成(○)のみではなく、達成状況に応じて、大幅達成(◎)と評価されてはどうか。
- ・図書館教育の充実に関して、学年全体の貸し出し数のみが報告されているが、全ての子どもたちが本を読んでいるのかが気になるところである。
- ・初等部の校訓の「考動(考えて動く)」に基づき、思考力育成などの取組がしっかり行われていると感じた。

#### イ 重点目標②「良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること」について

- ・生徒指導・人権教育の充実に関して、いじめ事案が発生した際にしっかりと指導する体制があり、指導を受けた児童が正直にアンケートなどで自己反省できる場があるということが大切だと感じた。
- ・いじめはない方がいいと思われがちだが、完全になくなるものではない。無理にゼロを目指すのではなく、起こった時にしっかりと指導されているからこそ、自分たちがやったことがいじめだと認識でき、アンケートにも正直に回答できているのではないか。
- ・「子どもを語る会」において、支援の必要な児童について、先生方全員で状況把握のうえ、児童それぞれに合った支援をされているとのことで、学校全体で手厚い対応がなされていると感じた。
- ・児童全員がiPadを持っているということで、いじめも対面の直接的なものではなく、SNSを使ったものも出てくるのではないか。大人でも、使い方が難しいこともあるので、表現の仕方など注意が必要となってくる。

#### ウ 重点目標③「管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること」について

- ・初等部と中高等部との連携に関して、例えば、初等部の「ミューズ学習」、中等部の「考える科」、高等部の「プロジェクト学習」の繋がりなど、実際の取組が保護者に伝えきれていない部分があった。今年度の「お話し会」は、初等部一期生による座談会形式で行われ、初等部・中等部・高等部の実際の取組を保護者に伝えることができ、初等部保護者から評価を得られたと感じている。一方で、初等部・中等部・高等部の連携の中でどのような子どもに育て欲しいのか、具体性を持った目指す子どもの姿の体系を作り上げる必要があると考える。
- ・中等部進学に向けた適切な情報提供の保護者評価が他の質問項目に比べて低い。初等部で公開されているシラバスが中高等部では公開されていないので、初等部・中等部・高

等部連携、また、初中高等部がどのような児童・生徒を育成していくのかを示すという面からも、ぜひ公開をお願いしたい。

- ・高槻市の公立の小学校と中学校においても、連携型小中一貫教育を活かしたコミュニティ・スクールを推進し、小中連携を進めている。こうした事例を踏まえると連携の前提として、相互の意思疎通が大切ではないかと感じている。

## (2) アンケート結果について

- ・改善につなげるという意味で、アンケートの悪い評価をしっかりと受け止めることが大切であると感じている。また、児童アンケートにおいて、良いことも悪いことも、正直に答えてもらえる環境を整えられている点を評価する。
- ・児童アンケートの①「関西大学初等部に入学して良かったと思いますか」と②「学校は楽しいですか」の否定的回答がそれぞれ3%と7%となっているが、全児童が入学して良かった、学校は楽しいと回答してくれるようになることを願っている。
- ・アンケート結果と重点目標の自己評価の内容がリンクしており、自己評価で課題として挙げられている点がアンケート結果で評価が低くなっていることから適切な自己評価であったと捉えている。全ての課題を一挙に解決することは難しいと思うが、今後、改善を進めていただきたい。
- ・研修を中心とした関西大学との連携に関しては、大学教員としても、改善していきたいと考えている。
- ・今年度、新たに追加の「コロナ禍への対応は適切に行われている。」については、様々な見方や意見がある中で、保護者の93%が肯定的な評価をされており、学校としては十分な対応をされたのではないかと感じている。

### [学校関係者評価委員会委員名簿]

氏 名	所属及び役職
喜 田 昌 良	高槻市磐手地区コミュニティ協議会 会長
白 井 宏 彦	関西大学初等部教育後援会 元会長
城 下 英 行	関西大学社会安全学部 准教授 ※評価結果とりまとめ執筆者
長 戸 基	関西大学初等部 校長

## 6 校長の意見書

関西大学 初等部  
校長 長戸 基

保護者・児童によるアンケート結果、教員による学校・教育活動評価の結果に加え、学校関係者評価委員の皆様からいただくご意見は初等部の学校運営・教育活動の改善に向け貴重なものであると考えている。

重点目標①「本校教育の柱である思考力育成の取組のさらなる充実をはかるとともに、ICT環境を積極的に活用した授業実践を進めること」について、学校関係者評価委員の皆様から「コロナ禍のICTを活用した遠隔授業等の取組をはじめ、大幅に達成されていると感じる項目も多数ある。評価にメリハリを付けるという意味でも、達成（○）のみではなく、達成状況に応じて、大幅達成（◎）と評価されてはどうか」など、過大な評価をいただいたことは学校にとって非常に嬉しい評価であると考えている。来年度は達成状況に応じた評価を心がけていきたい。

図書館教育に関して「全ての子どもたちが本を読んでいるのかが気になる」とのご指摘をいただいた。実態として「個々の児童による読書量」に差はあるが、児童の読書記録によれば、1・2年生全員が一人200冊以上の本（年間）を借りていることから「図書に親しみを持っていない児童」は皆無であると捉えている。中・高学年については、4年生以上を対象とした児童アンケート「⑥いろいろな本を読んだり、学習に本や資料を活用したりできましたか」という問いに対して7%の児童が「あまりあてはまらない」と答えている。ただし、児童アンケート「⑦iPadやパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか」という問いに対して97%の児童が「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答えているとおり、学年が上がるにつれて情報収集の手段が多岐にわたるようになることを考慮すると、学校としては一概に憂慮する状況であるとは捉えていない。今後も図書館教育の充実を目指した取組を継続していきたい。

重点目標②「良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること」については、学校関係者評価委員会の皆様からも「いじめやなかまはずれを行ったことを児童に自覚させ、きちんと指導した結果がアンケート結果でも確認されており、先生方の対応や児童の反応も評価できる」というご意見をいただいている。今後も継続的な取組を進めていきたい。

重点目標③「管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること」については、ご指摘をいただいた通り課題があると捉えている。学校関係者評価委員会の皆様から「中高等部シラバスの公開」などの具体的な提案もいただいたので、来年度の取組に検討を加え、改善していきたい。

以上

## 7 アンケート結果

- 2021年度 関西大学初等部学校評価アンケート質問項目（教員／保護者用）
- 2021年度 学校評価アンケート集計（教員／保護者）
- 2021年度 関西大学初等部学校評価アンケート質問項目（児童用）
- 2021年度 児童アンケート集計（児童）

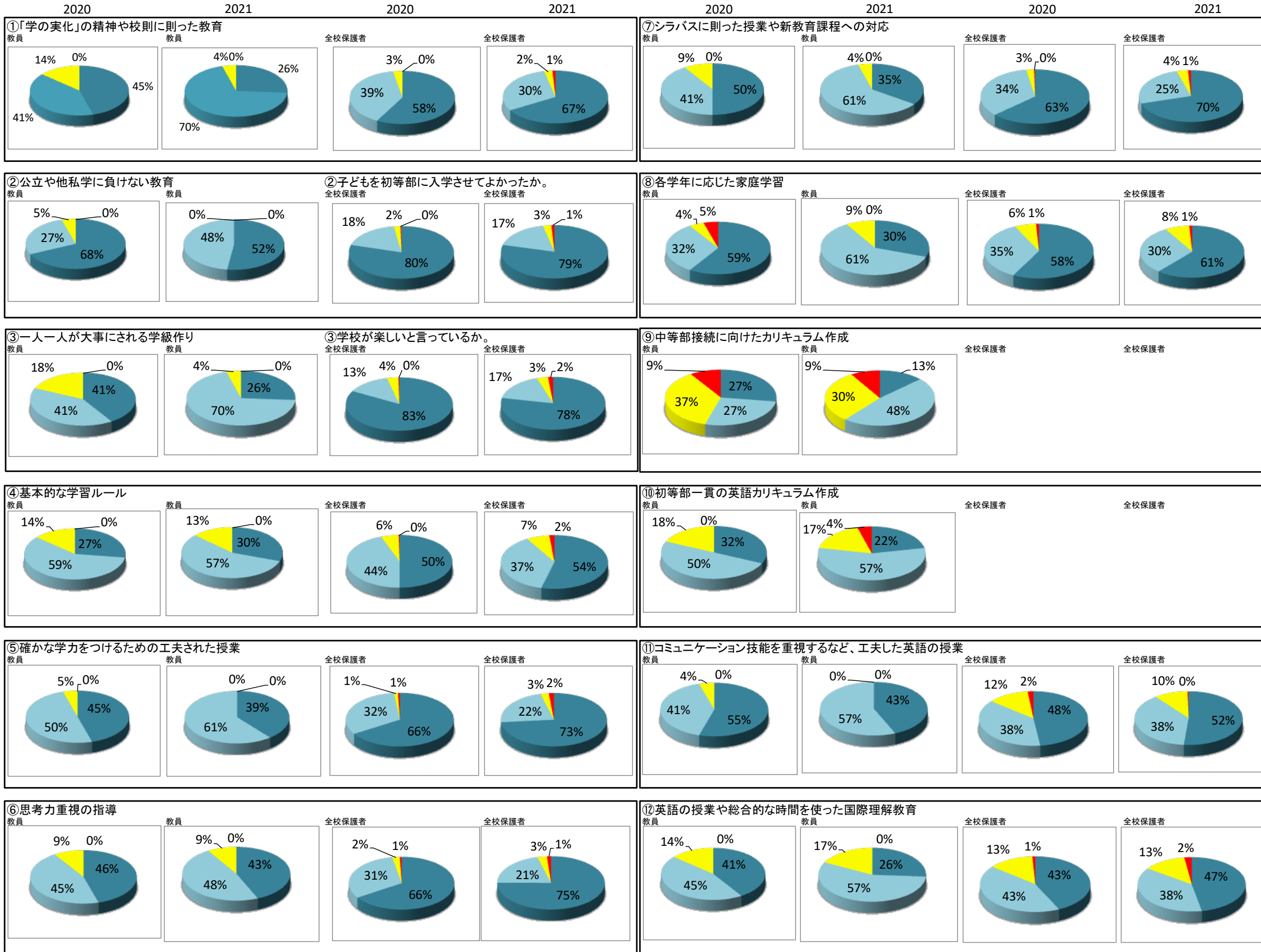


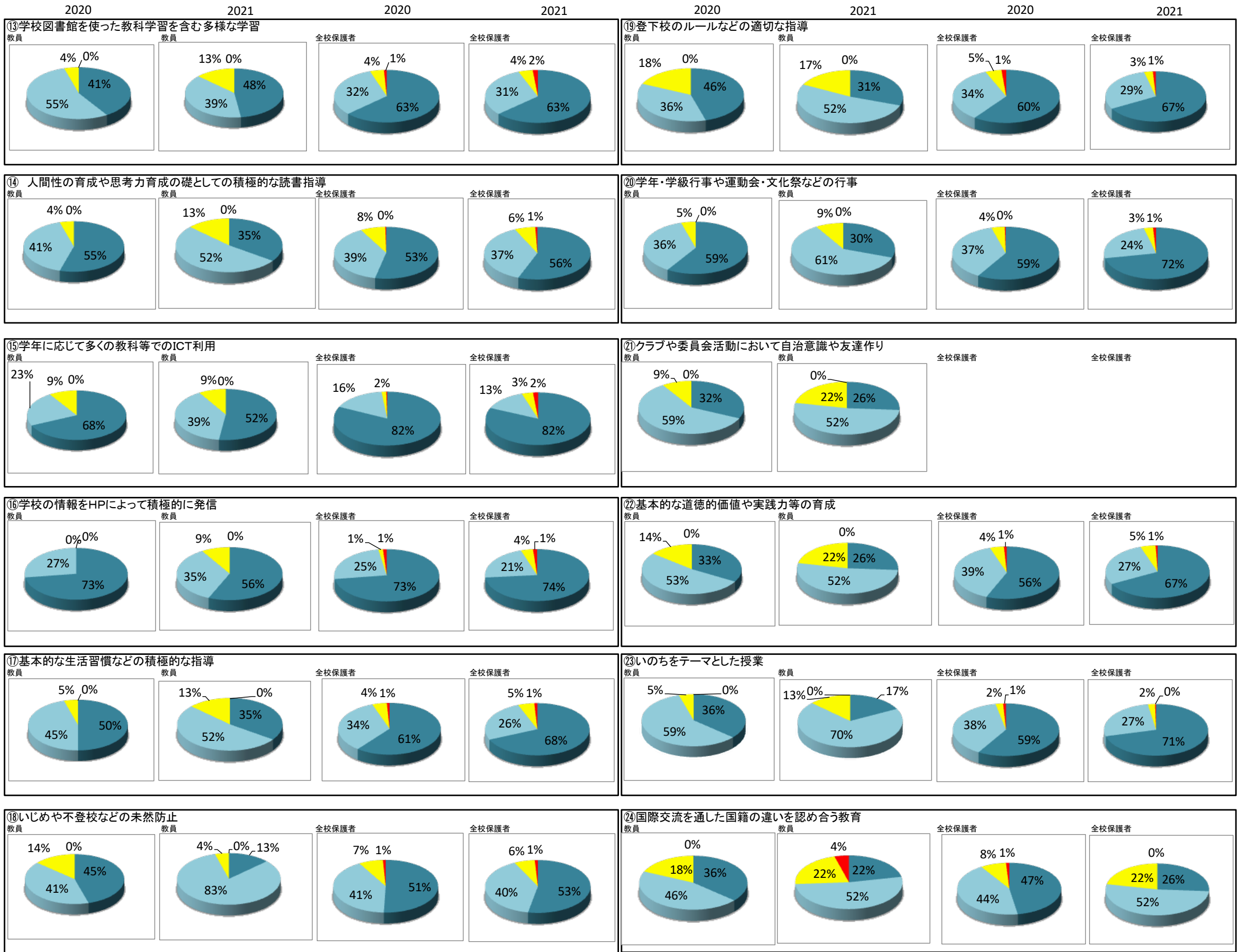
## 2021年度 学校評価アンケート（質問項目）

教員用	保護者用
<p>◎私学の独自性 (教育方針)</p> <p>(1) 学級経営</p> <p>(2) 学力向上</p> <p>(3) 英語教育</p> <p>(4) 国際理解</p> <p>(5) 図書館</p> <p>(6) ICT</p> <p>(7) 生徒指導</p> <p>(8) 特別活動</p> <p>(9) 道徳教育</p> <p>(10) 人権教育</p> <p>(11) 健康教育</p> <p>(12) 安全管理</p> <p>(13) 研修</p> <p>(14) 進路指導</p> <p>(15) 入試広報・連携</p>	<p>① 関西大学の「学の実化」の精神や初等部の教育方針・校訓についてご存知ですか。</p> <p>② 保護者としてお子さんを関西大学初等部に入学させて良かったと思われますか。</p> <p>③ お子さんは学校が楽しいと言っていますか。</p> <p>④ お子さんの授業中の学習態度はきちんと身に付いていると思われますか。</p> <p>⑤ 学力をつけるために工夫された授業が行われていると思われますか。</p> <p>⑥ 思考力の育成を重視した授業が積極的に取り入れられていると思われますか。</p> <p>⑦ シラバスや週案に対応した学習が適切に進められていると思われますか。</p> <p>⑧ 学年に応じた宿題や自主学習等の家庭学習を進める指導を行っていると思われますか。</p> <p>⑨ 英語教育では、コミュニケーション技能をはじめ、「話す」「聞く」「読む」「書く」の四技能をバランス良く指導していると思われますか。</p> <p>⑩ 外国の方との交流など、学年(発達段階)に応じて国際理解学習を進めていると思われますか。</p> <p>⑪ 図書館では読書だけでなく、ミュージック学習等、多様な教育が行われていることをご存知ですか。</p> <p>⑫ 読書の時間の設定や電子図書の利用など、学年に応じた読書指導が行われていると思われますか。</p> <p>⑬ 授業等でiPad等の情報機器が効果的に活用されていると思われますか。</p> <p>⑭ HPや学年通信・学年ブログ等から初等部の情報を得ることができていると思われますか。</p> <p>⑮ 挨拶や返事等の基本的な生活習慣の指導が適切になされていると思われますか。</p> <p>⑯ いじめや不登校が起らないように未然防止・早期対応等に学校全体で取り組んでいると思われますか。</p> <p>⑰ 交通ルールやマナーの指導等、適切な登下校指導が行われていると思われますか。</p> <p>⑱ 学年・学級行事や運動会・文化祭などの学校行事が学年(発達段階)に応じて行われていると思われますか。</p> <p>⑲ 授業や多くの機会を通じて道徳心の育成を学年(発達段階)に応じて行っていると思われますか。</p> <p>⑳ 学年に応じて「いのちや成長に関する授業」に学年(発達段階)に応じて取り組んでいると思われますか。</p> <p>㉑ 国際交流等を通じて、国籍・人種などの違いを認め合う教育を学年(発達段階)に応じて行われていると思われますか。</p> <p>㉒ 学年(発達段階)に応じて、社会における人権問題に関する教育を行っていると思われますか。</p> <p>㉓ 体育の授業や体育的行事を通して、学年(発達段階)に応じて体力作りを行っていると思われますか。</p> <p>㉔ 給食指導など、発達段階に応じた食育に取り組んでいると思われますか。</p> <p>㉕ ICタグによるチェック等、登下校の状況把握が確実にに行われていると思われますか。</p> <p>㉖ 「警報発令時等の登下校について」の内容についてご存知ですか。</p> <p>㉗ 初等部では地震や火災などの避難訓練を適切に実施していると思われますか。</p> <p>㉘ 教員は授業研究などを通して授業力の向上に努めていると思われますか。</p> <p>㉙ 研究発表会は初等部の教育の推進に役立っていると思われますか。</p> <p>㉚ (※5, 6年生保護者のみ) 中等部進学に向けて必要な情報を得ることができたと思われますか。</p> <p>㉛ 教育後援会は、教職員と望ましい連携がとれていると思われますか。</p> <p>㉜ 学校・学級からの連絡が必要に応じて適切に行われていると思われますか。</p> <p>㉝ コロナ禍への対応は適切に行われていると思われますか。</p>

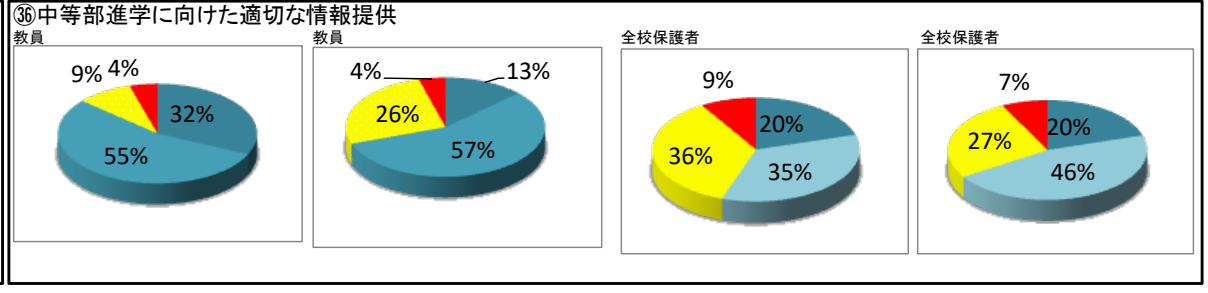
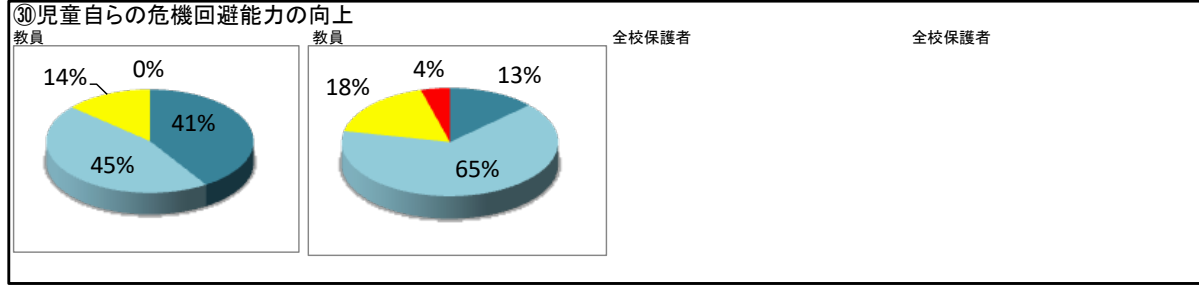
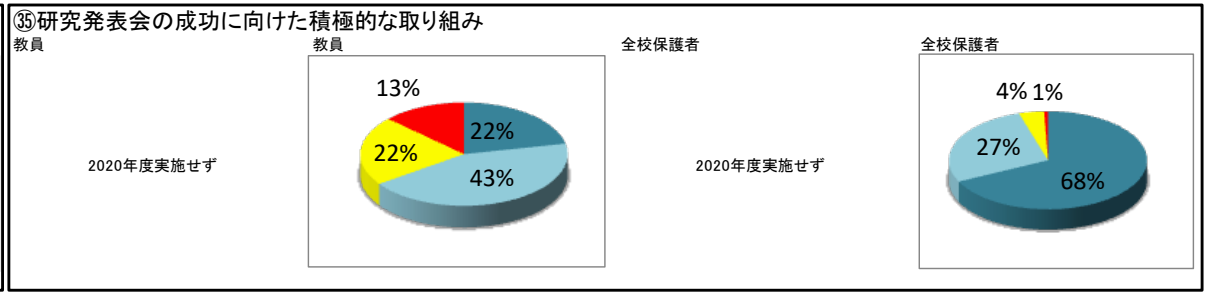
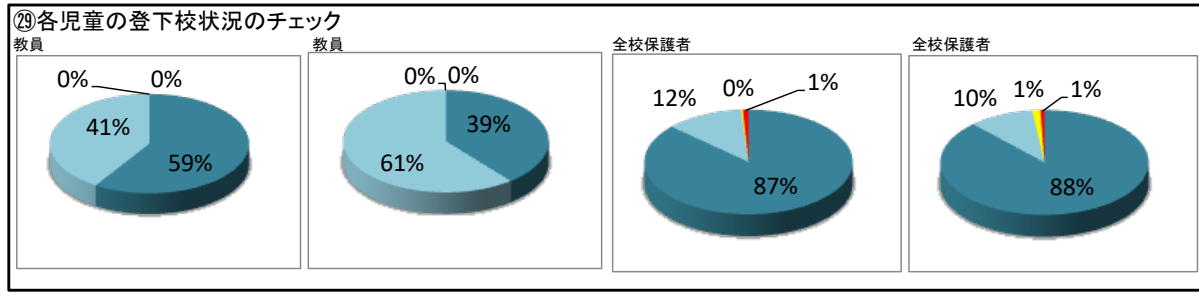
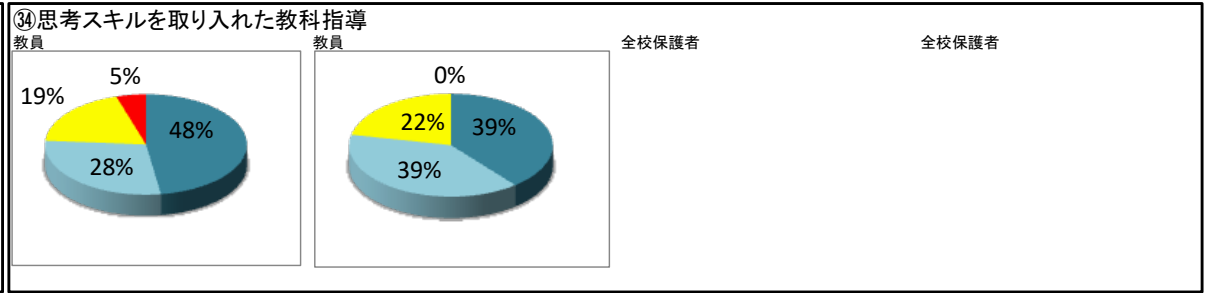
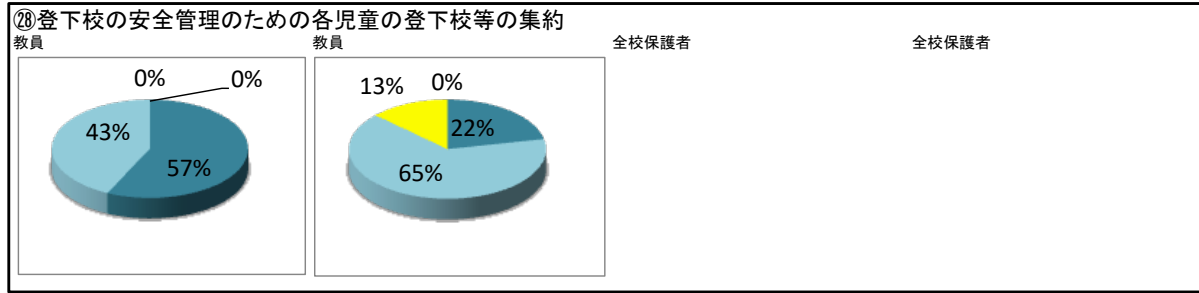
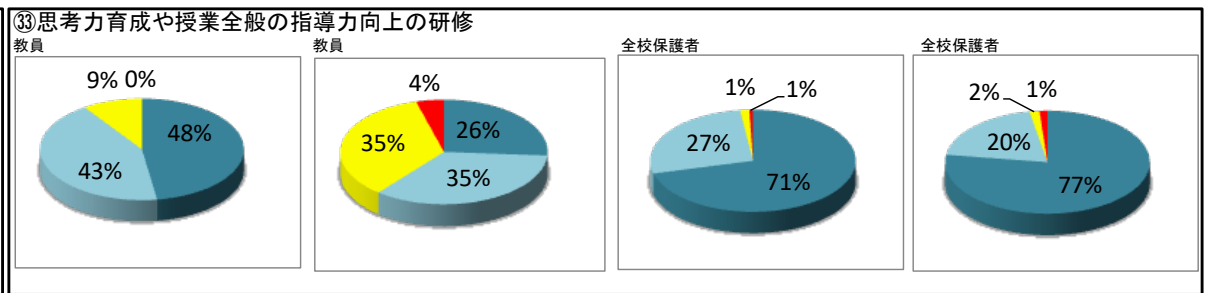
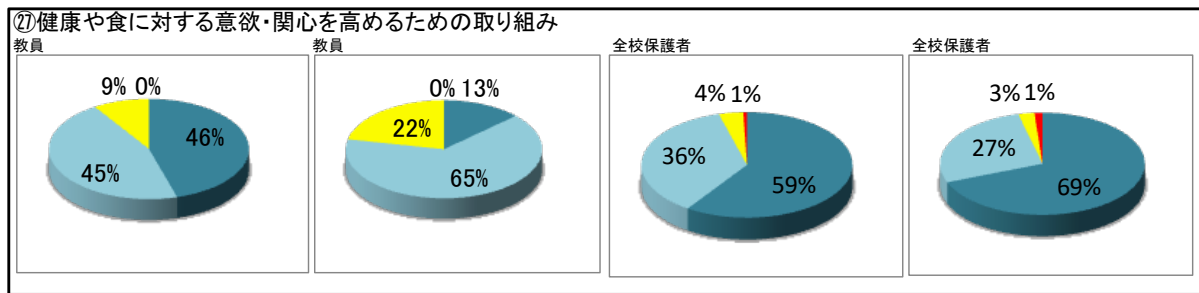
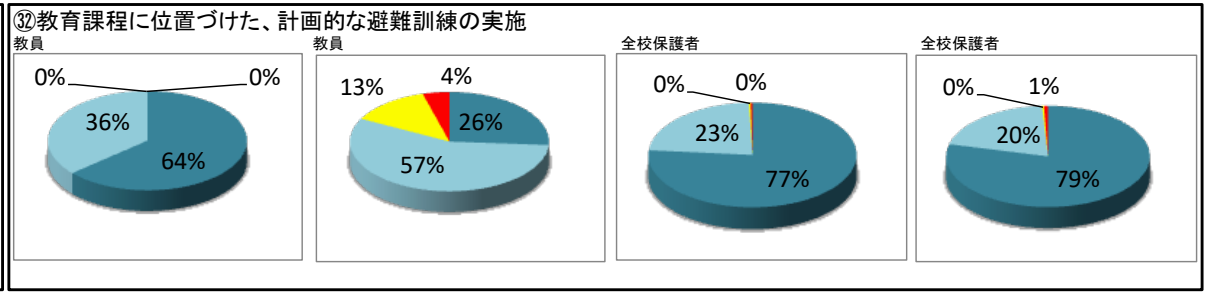
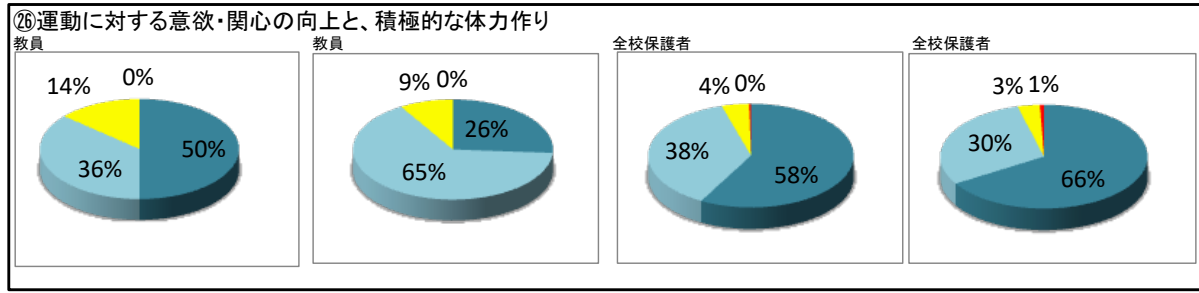
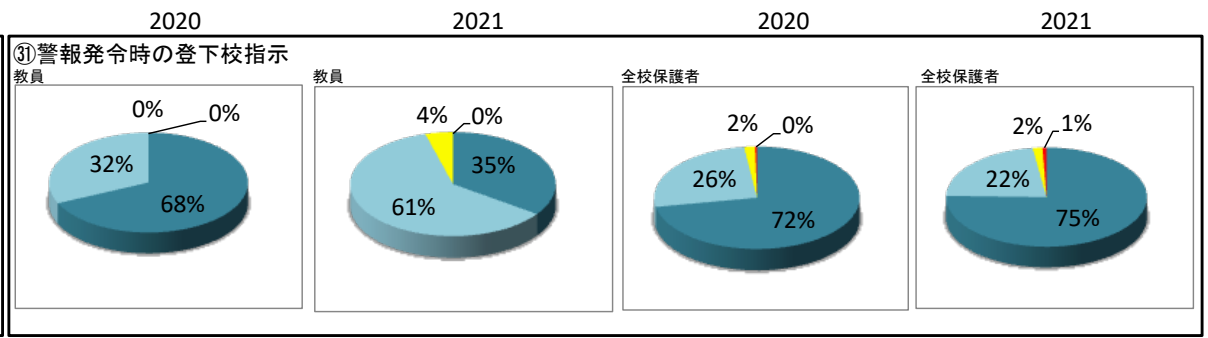
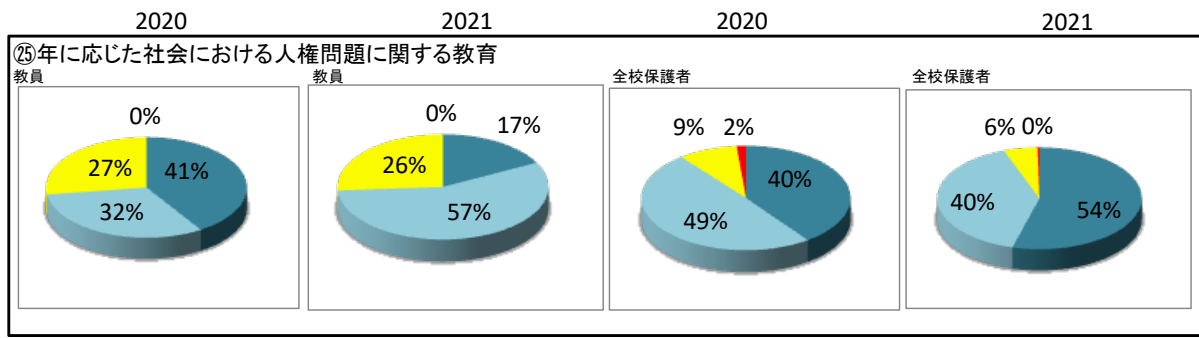
# 2021年度 学校評価アンケート 集計

■ よくあてはまる ■ ややあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ まったくあてはまらない







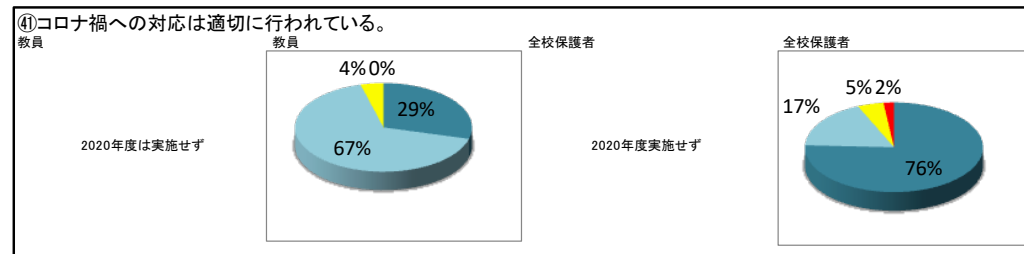
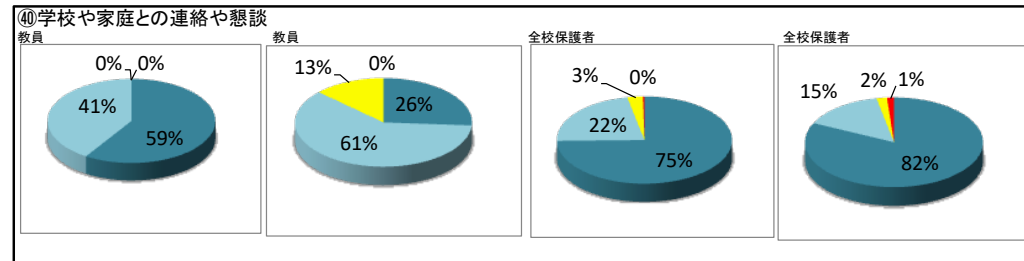
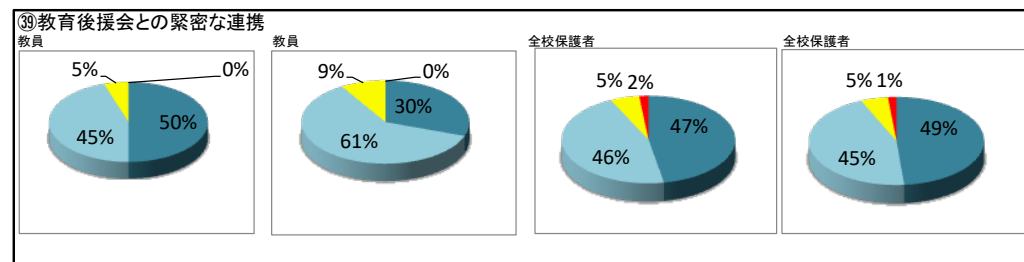
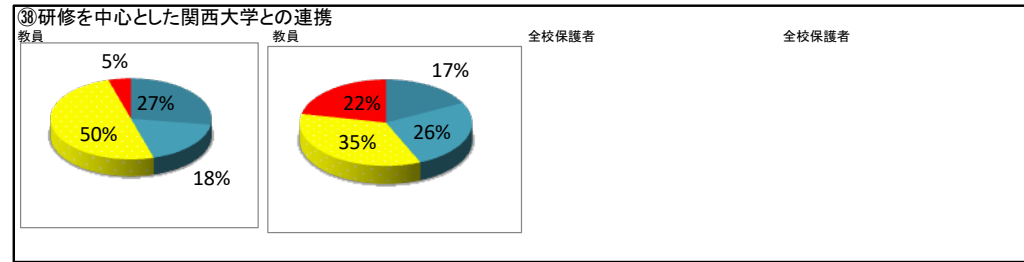
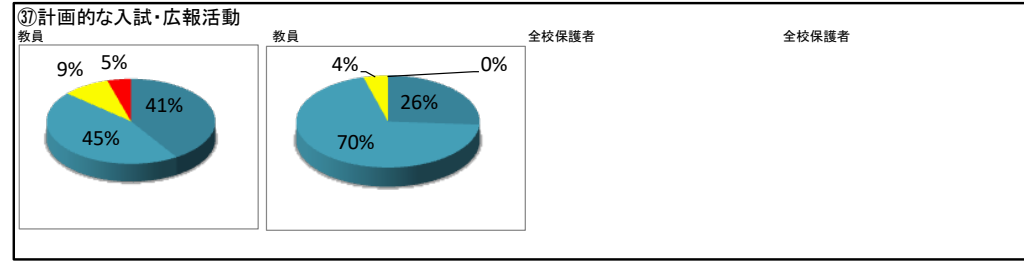


2020

2021

2020

2021



学校生活をふりかえって

名前 ( )

入学からこれまでの学校生活をふりかえって、下の質問にこたえましょう。

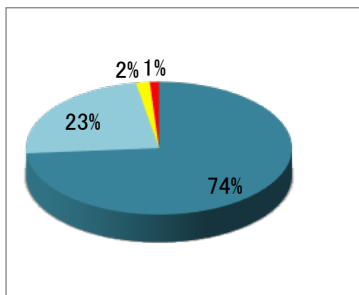
当てはまる番号に○をつけましょう。

	児童用質問	1よく当てはまる	2やや当てはまる	3やや当てはまらない	4全く当てはまらない
①	関西大学初等部に入学してよかったと思いますか。	1	2	3	4
②	学校は楽しいですか。	1	2	3	4
③	勉強をがんばっていますか。	1	2	3	4
④	思考力がついたと思いますか。	1	2	3	4
⑤	先生方は工夫した授業をしていると思いますか。	1	2	3	4
⑥	いろいろな本を読んだり、学習に本や資料を活用したりできましたか。	1	2	3	4
⑦	iPad やパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか。	1	2	3	4
⑧	運動会や文化祭などに積極的に取り組みましたか。	1	2	3	4
⑨	ルールを守って学校生活を送ることができましたか。	1	2	3	4
⑩	いじめやなかまはずれなどをしていませんか。	1	2	3	4

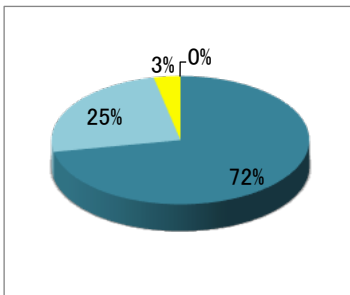
## 2021年度(児童アンケート)

■ よくあてはまる   
 ■ ややあてはまる   
 ■ あまりあてはまらない   
 ■ まったくあてはまらない

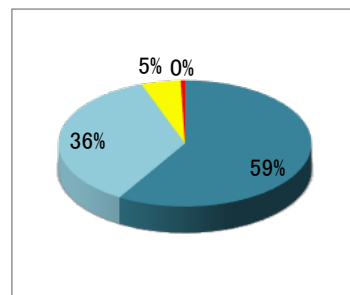
① 関西大学初等部に入學してよかったと思いますか。



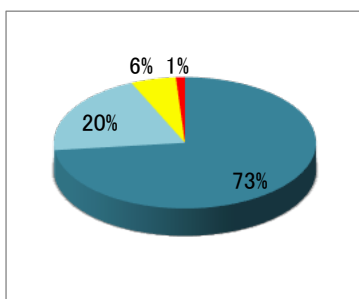
⑤ 先生方は工夫した授業をしていると思いますか。



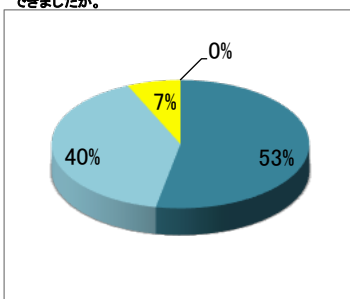
⑨ ルールを守って学校生活を送ることができましたか。



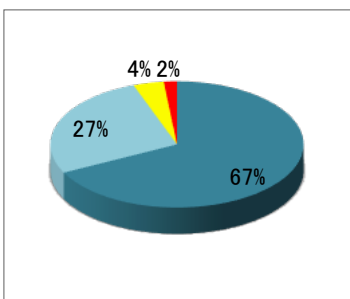
② 学校は楽しいですか。



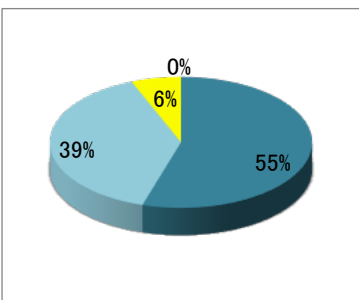
⑥ いろいろな本を読んだり、学習に本や資料を活用したりできましたか。



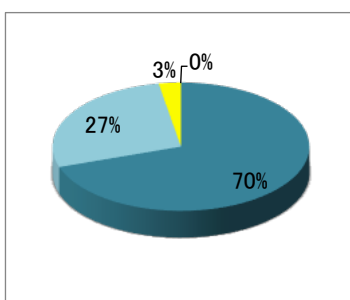
⑩ いじめやなぐさはずれなどをしていますか。



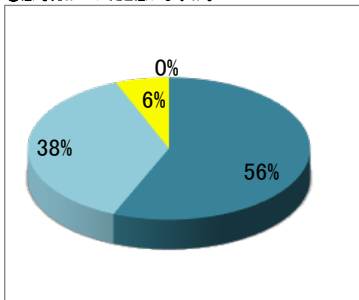
③ 勉強をがんばっていますか。



⑦ iPadやパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか。



④ 思考力がついたと思いますか。



⑧ 運動会や文化祭などに積極的に取り組みましたか。

